



彩の国
埼玉県



埼玉県のマスコット
コバトン

新公開

コーナー展示

黒田(小)家文書

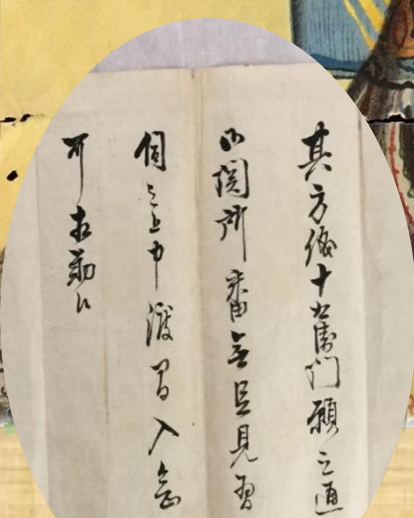
諸家文書



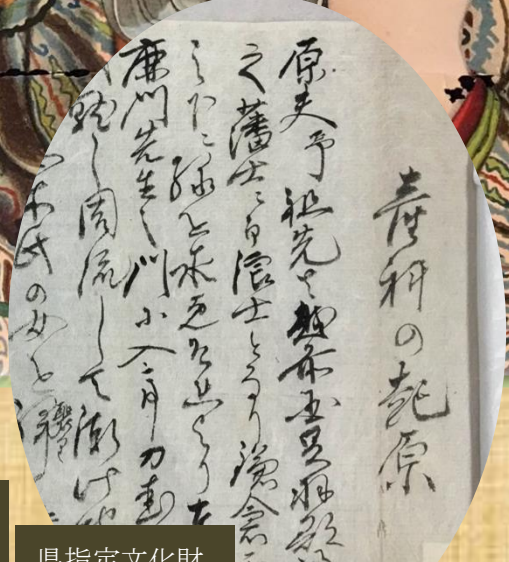
大小杖木店
武州熊谷町筑波所
大和屋小源治

電話百〇五番

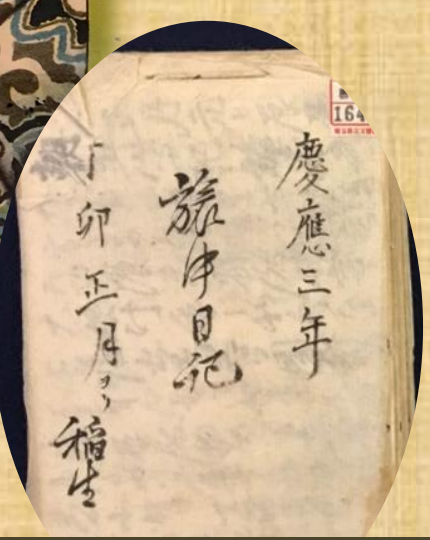
【黒田(小)家文書・大和屋引札】



足立家文書(追加)



県指定文化財
小室家文書(追加)



稲生家文書(追加)

平成29年

4月11日(火)~5月31日(水) 開館時間

休館日:月曜・祝日 9:00~17:00

埼玉県立文書館

さいたま市浦和区高砂 4-3-18
TEL: 048-865-0112
<http://www.monjo.spec.ed.jp/>

— 開催にあたって —

平成 28 年度に整理が完了したことを機に、黒田（小）家文書・諸家文書展を開催します。黒田（小）家は、大里郡熊谷町（現熊谷市）に居を構えた旧家で、文政期（1818～1830）から代々材木商を営み、現在も大和屋として続いています。黒田（小）家文書は 6,060 点にのぼる文書群で、歴代当主が活躍した熊谷の商業、金融、土地、町政などに関わる多数の古文書が含まれています。今回の展示では、歴代当主、材木商に関係する江戸時代、明治時代の文書を中心に同家の歩みを紹介します。

諸家文書は、このたび県の文化財に指定された小室家のほか、栗橋関所番士足立家文書、旗本稲生家文書の追加収集分で構成されています。いずれも埼玉県に深く関わる重要な史料であり、従来公開されてきた文書群を補うものです。今回の展示では、これらもあわせて紹介します。

平成 29 年 4 月

埼玉県立文書館長

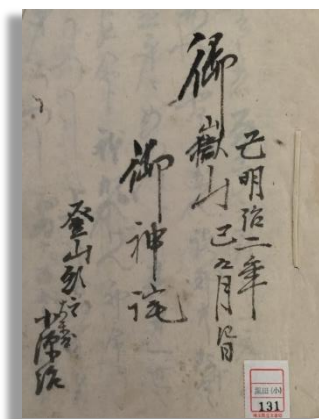
○黒田(小)家文書

I 黒田家の歴代当主

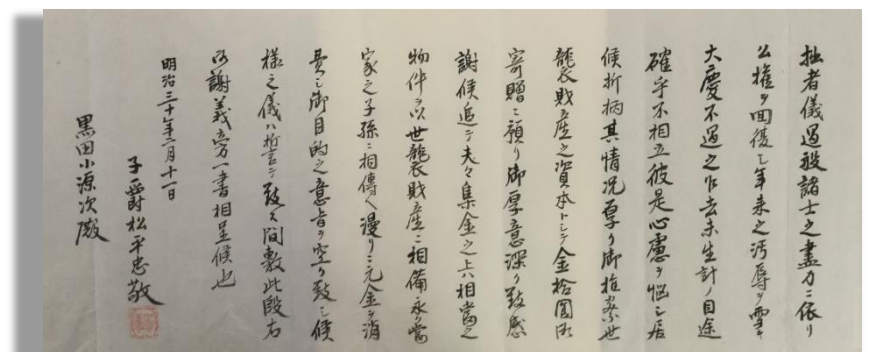
黒田家は、熊谷で七代続く材木商の家です。文政 7 年(1824)、熊谷宿の米穀商大和屋の二男黒田小源治は、独立して材木商に転じ、数年後には忍藩主松平家の御用商人となりました。その後、歴代当主は小源治を襲名し、材木業、町政に活躍しました。本展示では、文政期に材木商をはじめた初代小源治から、昭和中期まで活躍した五代目小源治までを紹介します。



三代目黒田小源治写真 【明治】



御嶽山御神託 【明治 2 年】

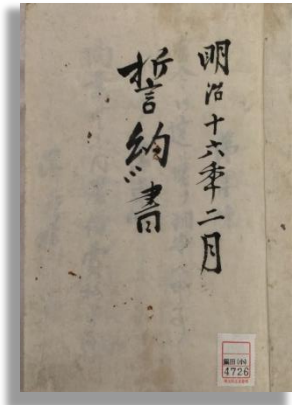


旧忍藩主松平忠敬から三代目小源治への書状 【明治 30 年】

II 材木商大和屋

江戸時代、荒川上流の奥秩父には江戸幕府直営林の御林をはじめとして建築資材林が多く、江戸への一大材木供給地となっていました。奥秩父で伐採された材木は、1本のまま荒川を流す管流しによって下流へ運ばれ、下流の筏場で筏に組み替えられてさらに下流地域へ運ばれていました。大和屋が拠点とした熊谷は寛永6年(1629)の荒川開削以来、上流からくる筏を受け取り、製材、出荷する材木の集積地となっていました。

そのため大和屋は、白久村や贄川村(ともに現秩父市)など筏流しを行なう筏場、折原村(現寄居町)や押切村(現熊谷市)など夜間に筏が経由する筏宿の職人、商人たちと盛んに取引を行ない、書状や金銭のやりとりをしました。一方で、熊谷で製材した材木は幕末には主に忍藩へ、明治時代以降は大里郡周辺地域の建築材として出荷されていたようです。



材木仲間誓約書 【明治16年】



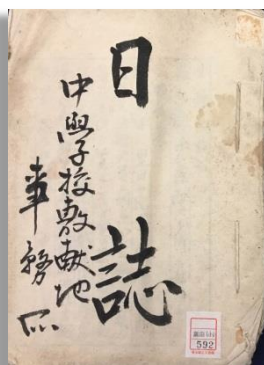
大和屋製材場のガラス乾板写真 【明治】

III 黒田家と熊谷

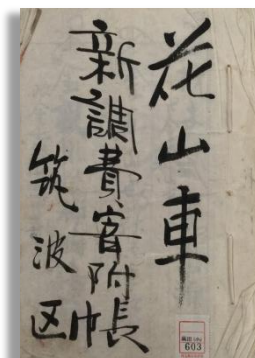
歴代の小源治は、家業の材木商として活躍するばかりでなく、熊谷町政、筑波区政にも参画し、熊谷の発展に尽くしてきました。黒田(小)家文書のなかには、こうした地域との関係を示す古文書も多く残されています。

明治28年(1895)6月1日に開校する県立第二尋常中学校(現県立熊谷高等学校)の設置運動において三代目小源治は、有志とともに熊谷における中等教育の必要性を主張し、学校の敷地の選定や土地の買収の中心人物として関わっていました。

熊谷うちわ祭は、明治20年代に区ごとに壮大な山車をだす現在の形式へ変化していきました。当時筑波区副区長だった黒田豊之進は、同区の花山車購入を先頭に立って進めました。その後、五代目小源治も新しい山車購入の中心に立ち、この山車は現在も使われています。



尋常中学校設置にむけた日誌 【明治25年】

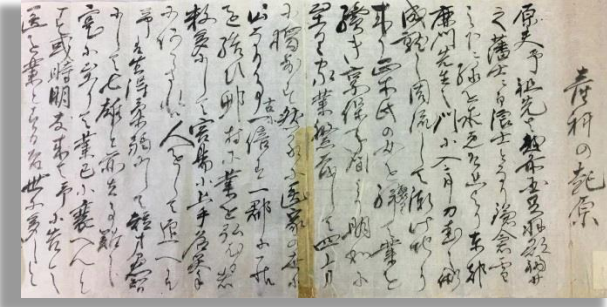


花山車新調費寄附帳 【明治35年】

○小室家文書(追加)

小室家は、享保年間から比企郡番匠村（現ときがわ町）に居住し、蘭方産科医として地域医療に多大な貢献をしたことで知られています。

小室家文書は平成9年に公開され、新たに291点の史料が寄贈され、平成27年に公開されました。そして、このたび平成29年3月にこれらをまとめて「小室家資料」全7,622点として埼玉県指定文化財となりました。



産科の起原 【文政7年】

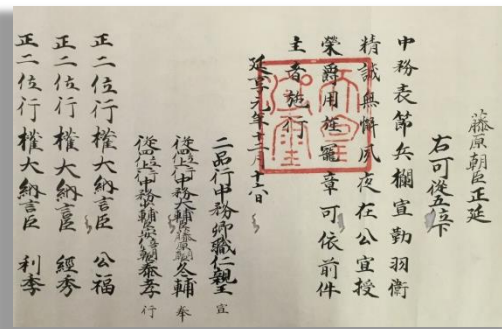


産科器具 【近世】

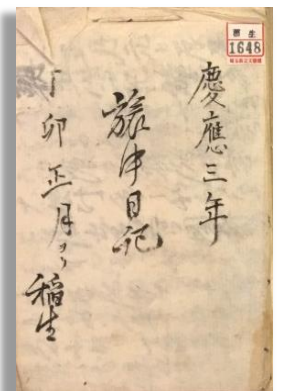
○稲生家文書(追加)

稲生家は、石高1万石未満の徳川家直轄家臣である旗本の家で、多波目村（現坂戸市多和目）など埼玉県内にも知行地を持ちました。

後に追加された史料678点には、幕末維新时期に活躍した稲生正道、正韶父子の史料が多く含まれています。



叙従五位下位記 【延享元年】

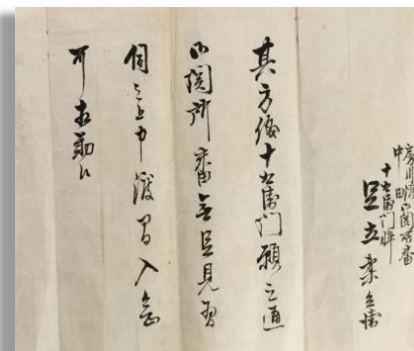


旅中日記 【慶応3年】

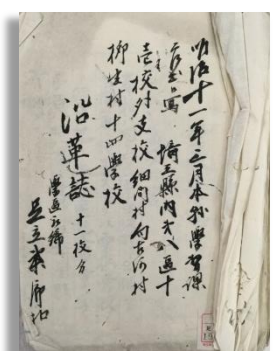
○足立家文書(追加)

足立家は、寛政12年(1800)から明治2年(1869)に栗橋関所が廃止されるまで同関所番を務めた家です。

追加分の242点には、関所番に関する文書に加えて、最後の関所番で、明治時代に入ると葛飾区出仕、学区取締となる足立柔兵衛(柔郎)が残した近代教育関係資料が多く含まれています。



関所番見習申渡 【安政5年】



学校沿革誌 【明治11年】